グローベン株式会社

設置説明書

ナチュラルストリームガーデン

ストリームキット
ロングサイズキット
<C50STR100>

⚠ 水質維持のため、常時ポンプを稼働させるようにして
ポンプを停止する場合は夜間のみにして下さい。
【冬季は再稼働時に配管などが凍結していないか確認して下さい。】

設置工事担当者様へ

- 本製品には、土壌、石材、植物及び、排水用配管は含まれておりません。
  別途ご用意下さい。
- 各グレードアップキットの接続については各説明書をご確認下さい。
- 本書は、設置工事用の説明書になります。水中ポンプの説明書は
  別紙をご参照下さい。
- 設置完了後、本書は施主様（日常ご使用になる方）へお渡し下さい。
  よろしくお願い致します。

この度はストリームキットをご購入頂き、誠にありがとうございます。
設置工事の前に本書をよく読み、警告、注意事項をよく守り施工して
下さい。
また、施工前に４ページを参考に梱包内容と数量を確認してから、
設置作業を行って下さい。
万一不具合、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せ下さい。

グローベン株式会社	URL http://www.globen.co.jp Email info@globen.co.jp
本社(営)	〒455-0025 名古屋市港区本星崎町字南3998-31 TEL 052-829-0800 FAX 052-829-0801
関東(営)	〒336-0926 さいたま市緑区東浦和7-24-28 5-102 TEL 048-810-5500 FAX 048-810-5163
関西(営)	〒666-0016 兵庫県川西市中央町18-26 TEL 072-755-8075 FAX 072-755-8077
商品センター	〒455-0025 名古屋市港区本星崎町字南3998-31 TEL 052-619-6788 FAX 052-619-6786

目次

・表紙、連絡先 ―― 1
・目次 ―― 2
・注意事項 ―― 3
・梱包内容 ―― 4
・各部の名称 ―― 5

設置手順

１：地面の掘削 ―― 6
２：貯水部分の準備 ―― 7
3A：貯水部分の設置 A ―― 8
3B：貯水部分の設置 B ―― 9
４：小川部分のシート仮敷設 ―― 10
５：大きい石の固定 ―― 11
６：配管の接続 ―― 12-13
7A：吐水口の接続 A ―― 14
7B：吐水口の接続 B ―― 15
８：各部分の仕上 ―― 16-17

お願い

・注意事項、日常のお手入れ ―― 18

本書に含まれない内容（別紙）
●グレードアップキット説明書 ●水中ポンプ説明書 ●水中ポンプ製品保証書

注意事項

警告

警告事項を守らない場合には死亡や重傷に至る重大な事故を起こすおそれがあります。

・設置の際は周囲の安全を確保して下さい。
・小川の水は飲料用水としての使用はしないで下さい。
・水を取出す蛇口などには「飲料禁止」の表記を明示して下さい。
・本製品は庭に小川を作るキットです。違う目的に使用しないで下さい。
・排水が逆流しないようにして下さい。
・清掃などの目的で、ポンプピットを開ける場合にはペットや子供が転落しないようにして下さい。
・設置後に貯水部上や周囲2m程度の範囲に、建築構造物などを設置したり、車両が載り入れたりしないようにして下さい。
・水中ポンプなど電気製品の設置は必ず専門の施工業者などに相談して、漏電による感電事故を起こさない様にして下さい。
・粘土層を掘削した場合は、同じ粘土で埋戻しを行って、掘削した水が貯まらない様に対策を行って下さい。
・掘削時に地下水が出た時は施工を中止し、地下水の水位を確認して下さい。地下水の水位が貯水部分の水位より高くなった場合は、自動給水などの設備が別途必要になります。
・伏流水によって発生した損害は、天災と同じく責任は負いかねますので、現場状況により、ポンプによる排水などの対策を別途行って下さい。

注意

注意事項を守らない場合には、怪我をしたり、製品が損傷する場合があります。

・設置工事の際には安全を確保して、器材の下敷きになったり、ケガをしない様に十分注意して下さい。
・設置、使用の前に器材や配管に破損や水漏れが無いか確認して下さい。
・設置中、設置後に関わらず、小川の設置箇所付近で火気を使用しないで下さい。変形や破損の恐れがあります。
・各器材は定期的に点検、清掃をおこなって下さい。
・清掃に際しては、有機溶剤を使用しないで下さい。

18ページも合わせてご覧下さい。

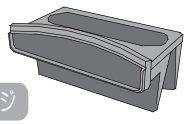
梱包内容

施工する前に以下の部品が全て揃っているか確認して下さい。

A ストリームフォール C50STR200

入数:1 台

シリコン、フランジ、ネジ6本付属



入：40A メネジ

B ポンプ：ECO-X13000 C40TC1300

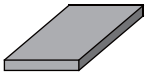
入数:1 台

電源コード：10m

出：40A オネジ

C ストリームブロックス C50STR203/C50STR2031

入数：ラージパネル：77 枚
スモールパネル：88 枚



ラージパネル
サイズ：D407×W690×H20mm

スモールパネル
サイズ：D410×W390×H20mm

貯水部分に使用します。
組み立てると11個のブロックになります。

D ポンプピット C50STR201

入数:1 台

E ポンプピット延長 C50STR202

入数:1 台

F ポンドシートA C50FS1311S

入数:1 枚　3.0×11.0mサイズ

防水性のゴムシートです。
小川部分に使用します。

小川

G ポンドシートB C50FS1607S

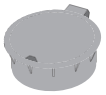
入数:1 枚　6.0m×7.0m

防水性のゴムシートです。
貯水部分に使用します。

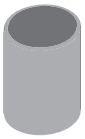
貯水

H バルブボックス A C10PM100A

入数:2 セット



フタ



150φ塩ビ管

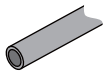
I 不織布 C50SJ100

入数:3 巻　1.0×50.0m

ポンドシートの保護布です。

J 水位計ユニット C50STR2041

入数:1 セット



50φ塩ビ管

水位計

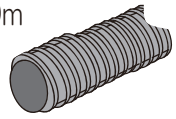
K ボールバルブ　40A C10PB040

入数:2 個

40A ネジ

L リベッドホース C40MSP040N

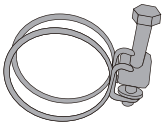
入数:6.0m



φ40

M ホースバンド C15HB048W

入数:6 個



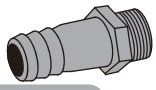
N タケノコ脱着ニップル C15HU040W

入数:1 個

φ40 ホース

O タケノコニップル C15HN040R

入数:4 個



40A オネジ＊φ40 ホース

P 樹脂ソケット C15S4040FFR

入数:1 個

40A メネジ＊40A メネジ

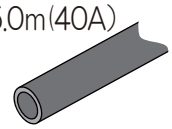
Q 樹脂ニップル C15N4040MMR

入数:1 個

40A オネジ＊40A オネジ

R ポリエチレンパイプ C15PE040

入数:15.0m(40A)



40A

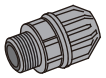
S メスアダプター C15PA4040FR

入数:1 個

40A メネジ＊40A パイプ

T オスアダプター C15PA4040MR

入数:1 個



40A オネジ＊40A パイプ

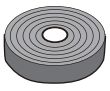
U メネジ付チーズ C15PS4040R

入数:1 個

40A メネジ＊40A パイプ

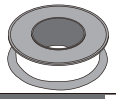
V ブチルテープ C30PH001

入数:1 巻　20m(50mm 幅)



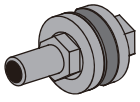
W シールテープ C10SB600

入数:1 巻　15m（13mm 幅）



X フィッテイング C15FT040R

入数:1 個



40A

別途ご用意して頂く必要のある物	・各種工具　・排水用配管、接続部材（40A）　・石、岩、砂利 ・砂、土　・植栽

各部の名称

各部の名称と配置は下図の様になっています。

吐水部分

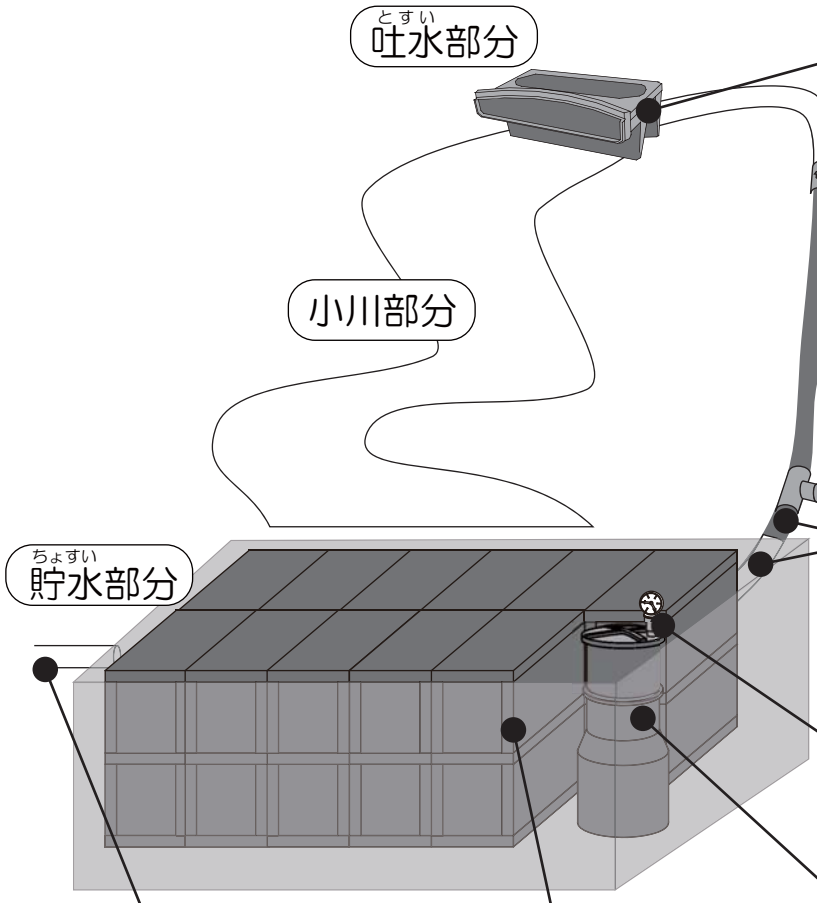
小川のスタート部分です。
水の出る部分以外は、石や
草花で隠す事が出来ます。

小川部分

景観を楽しむ主となる部分で
す。段差部分や側面は手順に
従って正しく掘削して下さい。

貯水部分

ストリームキットに流れる
水を貯留する部分です。
土を掘って各器材を入れます。
ロングサイズキットでは、
約 2640 リットルの水を貯留
します。



吐水口（ストリームフォール）

ポンプで汲み上げた水を小川に
注ぎます。

流量調整バルブ

小川に流れる水の量を調整する
バルブです。
全開にした後に調整をします。

排水バルブ

小川の水を抜く時に使用する
排水用のバルブです。通常は
閉めておきます。排水管（40A）は
付属していません。

配管

ポンプで汲み上げた水を
ストリームフォールに送ります。
曲げやすいリベッドホースと
強靭なポリエチレンパイプの
2 種類を使います。左図で白色は
リベッドホースです。

水位計

貯水部分の水位を表示します。
見方は１７ページをご参照下さい。

オーバーフロー

貯水部分に降雨などで増えた
余分な水を排水します。
排水管（40A) は、付属して
いません。

ストリームブロックス

大小のパネルを組み合わせて
11 個のブロックを作ります。
人や砂利が載っても耐えられる
荷重強度を備えています。

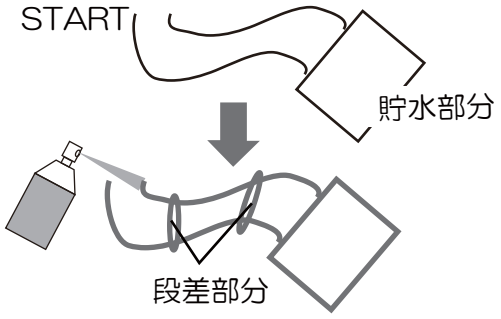
ポンプピット

ポンプを収納します。
メンテナンスが出来る様に
フタは取り外しができます。

設置手順：1 地面の掘削

貯水部分と小川部分を形造ります。

1 小川のイメージを地面に書く

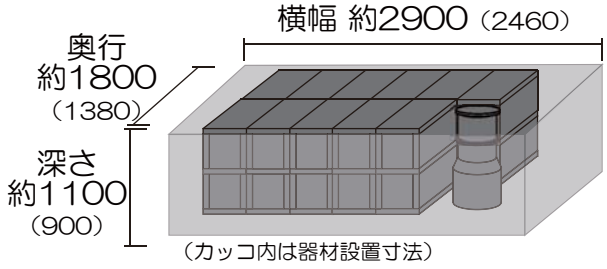


計画している小川の形を地面の上にロープやテープを使って描き、その上をスプレーでなぞります。段差を作る場所もマークをします。

⚠ ロングサイズキットは全長10mです。

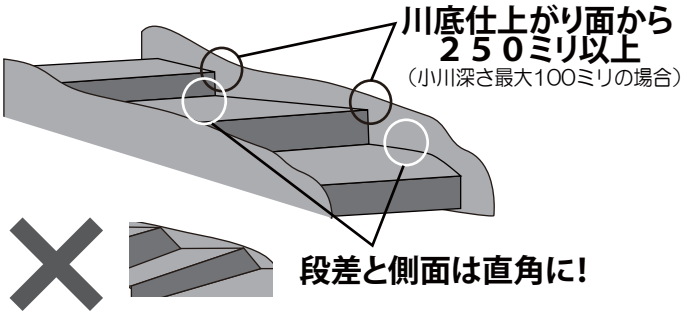
One Point ! 仕上がった時にどんな向きや角度から眺めるか、どんな大きさの石や植物を配置するか想定して進めましょう。

2 貯水部分を掘ります。



貯水部分にはストリームブロックスとポンプピットが図のように入ります。（カッコ内は器材設置寸法）
片側２００ミリ以上の余裕を持って掘ります。
貯水部分の側面と底は、まっすぐ平らになる様掘って下さい。掘り出した土は、小川部分の造成に使わない場合は処分して下さい。使う場合は予め小川の形状に合わせると作業し易くなります。
※地下水が発生した場合は対策が必要です。

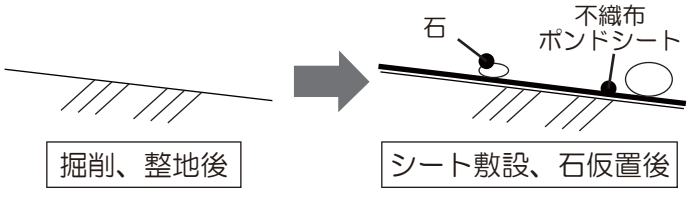
3 小川の部分を掘ります。



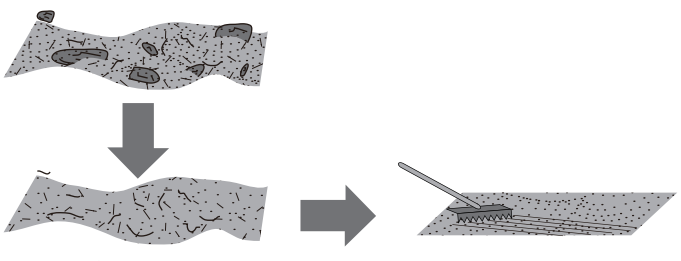
段差滝と側面部分は直角をになる様に心掛けて、側面と段差の一番近い部分は２５０ミリ以上を確保して下さい。少ない場合には水が横に漏れ出す恐れがあります。

仕上がり時の目安
掘り出す場合には2-3倍程度大きめに掘り出して、 仕上げの石や砂利でに少しずつ埋め戻す様にして下さい。
川幅：最大８００ミリ　小川深さ：最大１００ミリ

One Point ! 勾配の緩い傾斜地に小川を作る場合は階段状に掘削せずに勾配を利用して、作っていく方法も可能です。



4 石や植物の根などを取り除き、地面をきれいに整地します。



土を掘り出した部分にある、石やゴミ、植物の根を取り除いた後、底面を固めて平らにします。
底面に砂を１００ミリ程度で敷き詰め、均等にならして十分しめ固めて下さい。

One Point ! 植物の根が成長して、小川部分にまで伸びて来る恐れがある場合は、バンブーカット（別売品）を使って、破損するのを防ぎます。

設置手順：2 貯水部分の準備

ストリームブロックスとポンプピットの組み立てをします。

1 ストリームブロックスを組み立てます。

使う部材	C ストリームブロックス

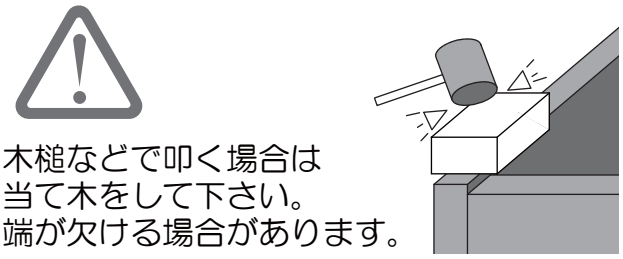
組み立てる前に

長い方が縦

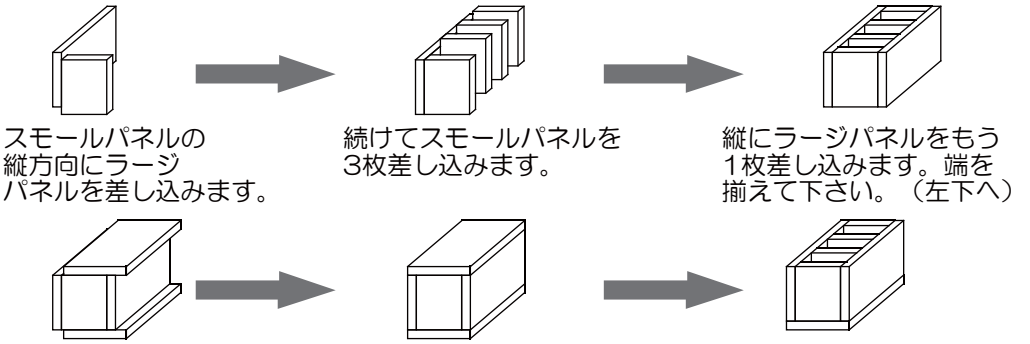
スモールパネルは縦と横でサイズが若干異なります。
長い方が縦になります。

大：7枚　小：8枚

ラージパネル：7枚
スモールパネル：8枚で
「ひと固まり」になります。



木槌などで叩く場合は
当て木をして下さい。
端が欠ける場合があります。



スモールパネルの縦方向にラージパネルを差し込みます。

続けてスモールパネルを3枚差し込みます。

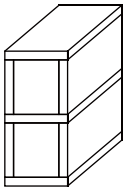
縦にラージパネルをもう1枚差し込みます。端を揃えて下さい。（左下へ）

水平方向のラージパネルを上下に1枚ずつ差し込みます。

端をきれいに揃えます。

水平方向のラージパネルを１枚だけ差し込んだ物を別にもう1つ作ります。

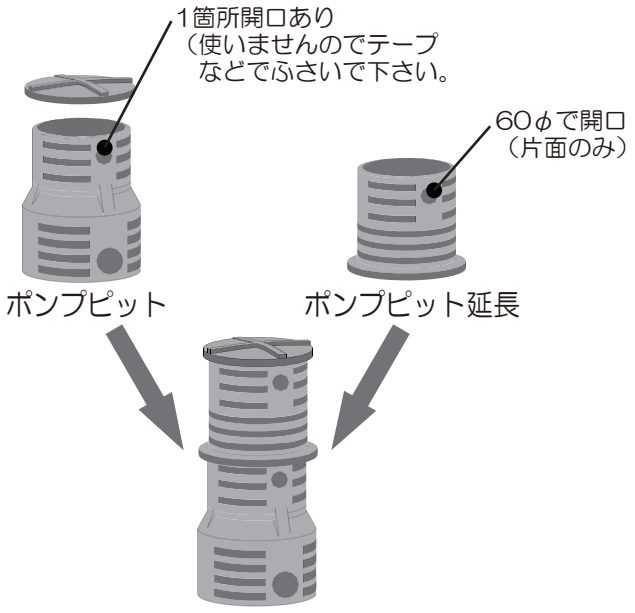
完成



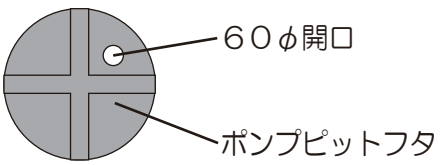
上下に重ねたら完成です。
ロングサイズキットでは
11個必要になります。

2 ポンプピットを組立します。

使う部材	D ポンプピット　E ポンプピット延長



ポンプピットの本体とフタの間に延長用の部品を取付します。
接着する必要はありません。
本体には1箇所開口があります。（使いません）
ポンプピット延長部品に、60φの穴を1箇所空けます。
ポンプピットのフタに水位計用の穴（６０φ）を開けます。

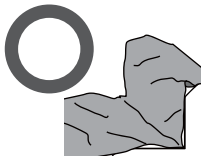


貯水部分の器材設置の方法は２種類あります。
現場状況や重機の有無などに応じて、お選び下さい。

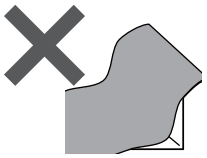
失敗しないポンドシート敷設

One Point !

ポンドシートはたるみが出来る程度に余裕を持たせて、敷きます。突っ張っている部分が出来たら、外側から内側に寄せます。仮固定の間はシワを伸ばす必要はありません。



余裕のある敷設



余裕のない敷設

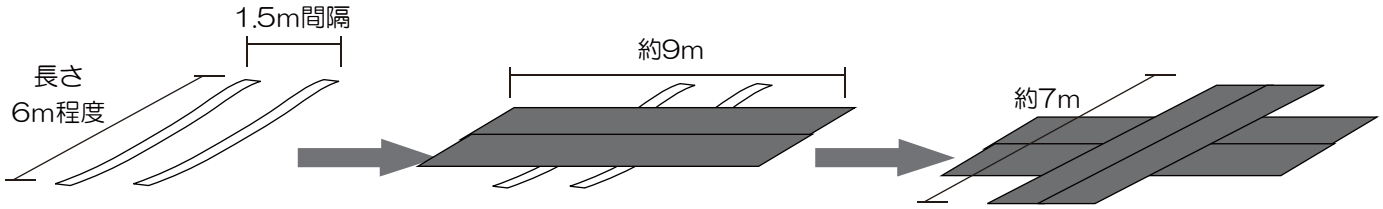
設置手順：3A 貯水部分の設置（重機を使う場合）

ポンドシートと不織布を敷いて器材を設置します。

使う部材				
G	ポンドシートB 6.0×7.0m	I	不織布 1.0×50.0m：１巻	手順２で組み立てた ストリームブロックス、ポンプピット

1 ポンドシート、不織布、ストリームブロックス、ポンプピットを準備します。

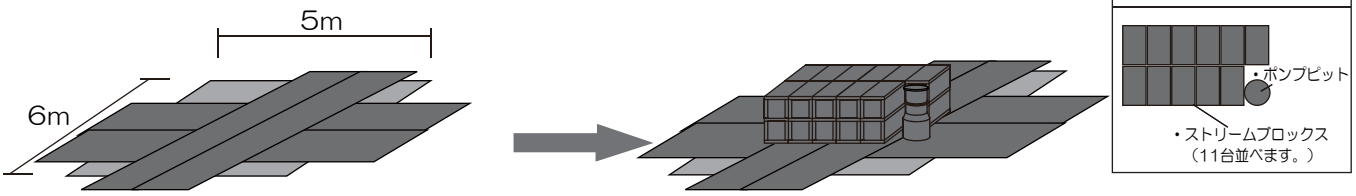
※長さ6m程度の布製吊ベルトをご用意して下さい。



6m程度の長さの吊ベルトを1.5mの間隔に並べます。

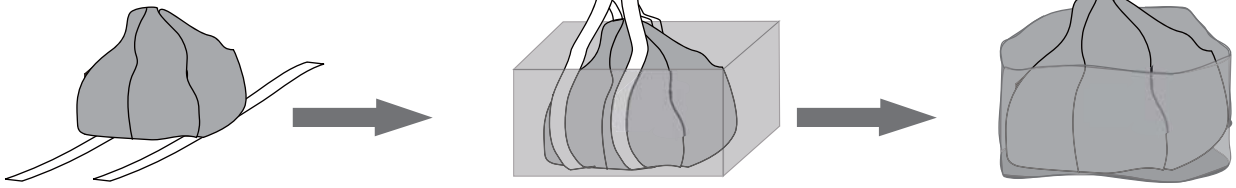
不織布を9m分切って上に乗せます。

7mに切った不織布を2本並べます。
（左下へ続く）



ポンドシートの中心と不織布の中心が同じになる様にを重ねて、
その上にもう一度不織布を敷きます。
（不織布は2重になります。）

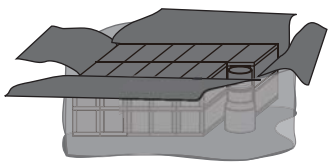
手順２で組み立てたストリームブロックスとポンプピットを中心に置きます。（左下へ続く）
※横列のストリームブロックス同士を結束バンド等で固定すると作業し易くなります。



ポンドシートと不織布を上に折り畳んで巾着状にします。

吊ベルトで吊り上げて、貯水部分に入れます。
吊ベルトを抜きます。

すき間に土を入れて、埋め戻します。
埋め戻しした土をしめ固めます。
（左下へ続く）



畳んでいたシート、不織布を広げます。

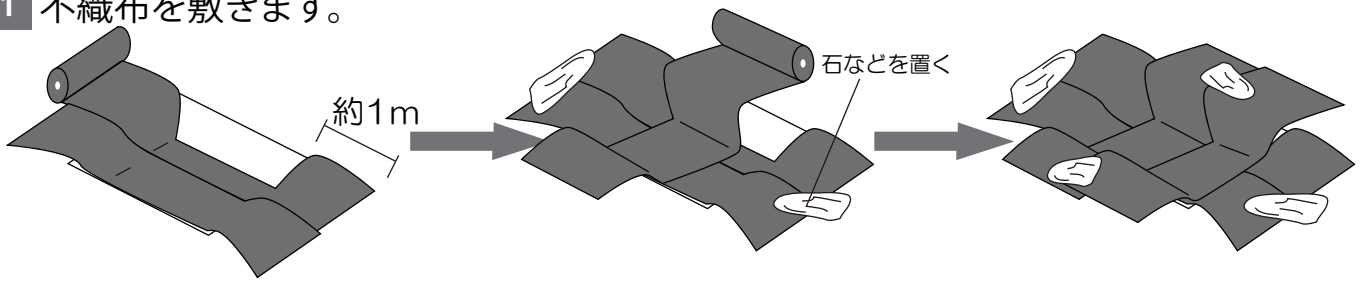
10ページへ

設置手順：3B　貯水部分の設置（重機を使わない場合）

ポンドシートと不織布を敷いて器材を設置します。

使う部材				
G	ポンドシートB 5.0×6.0m	I	不織布 1.0×50.0m：1巻	手順２で組み立てた ストリームブロックス、ポンプピット

1 不織布を敷きます。



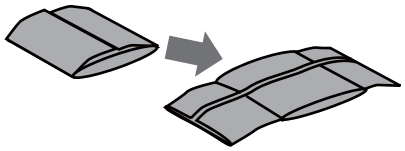
縁を１m程度余分に地上出して、不織布を9m分切って、長手方向に敷きます。

縦方向に7m分切って敷きます。敷いた後は動かない様に、石などを置いて仮固定します。

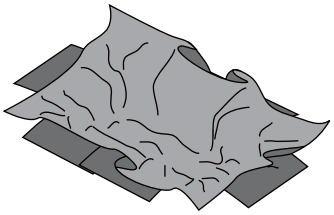
同様に7m分切って敷きます。

One Point！
不織布やポンドシートは大きさに余裕があるので、突っ張っていたり、伸びている箇所を無くして、地面の形になじむようにして下さい。

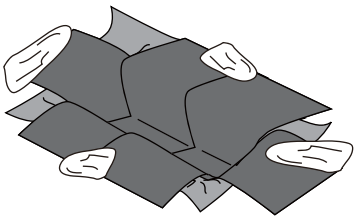
2 ポンドシートを敷きます。



貯水部分の中心にポンドシートを置き、外に向けて広げていきます。



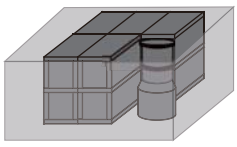
ポンドシートを広げた状態

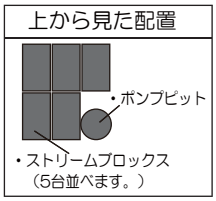


不織布を同じ手順で重ねます。（不織布は2重になります。）

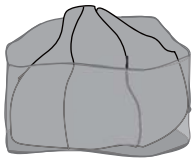
ポンドシートはあらかじめ外へ広げられる様に折り畳んであります。畳んだシートの表面に広げた時のサイズが記載してありますので、参考にしてください。

3 ポンプピットとストリームブロックスを置きます。

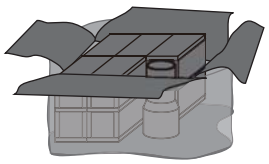




手順２で組み立てたストリームブロックスとポンプピットを中心に置きます。※横列のストリームブロックス同士を結束バンド等で固定すると作業し易くなります

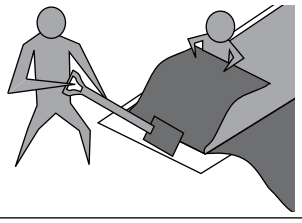


ポンドシートと不織布のハミ出ている部分を内側に折り畳んで、すきまに土を入れて埋め戻し、しめ固めます。



土をしっかり固めたら畳んでいたシートと不織布を広げます。

One Point！
不織布やポンドシートは、ストリームブロックスやポンプピットになるべく密着させ、コンパクトに内側へ畳んでから土を入れて下さい。
埋め戻しの際には右図のように二人一組でシートを張る人と埋め戻す人で分担しながら作業をすると上手く出来ます。

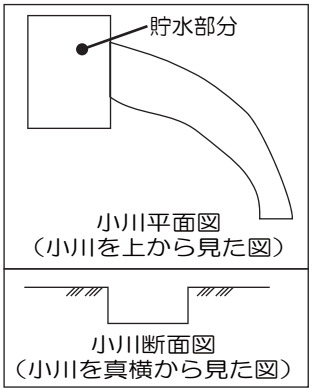


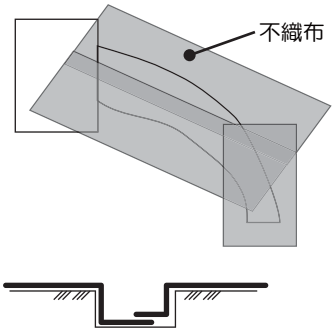
設置手順：４ 小川部分のシート仮敷設

小川部分にポンドシートと不織布を大まかに敷きます。

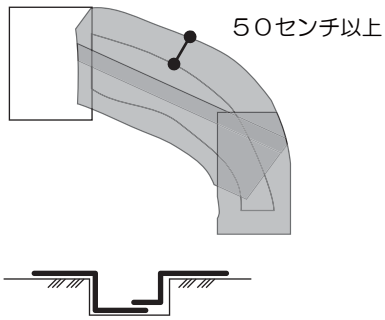
使う部材					
F	ポンドシートA 3.0×11.0m	I	不織布 1.0×50.0m	V	ブチルテープ 20m（５０mm幅）

1 不織布を敷きます。



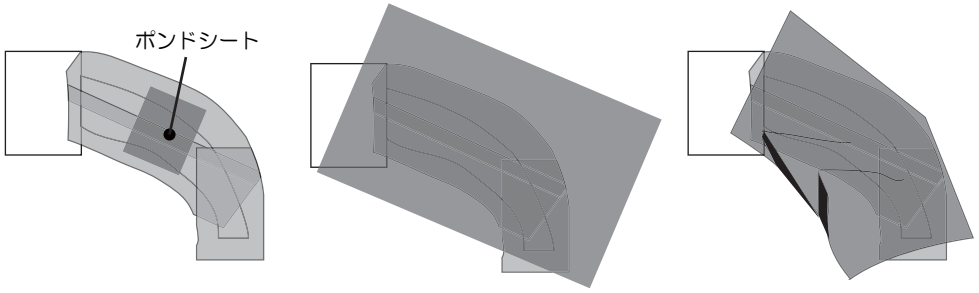


最初はおおまかに直線に敷きます。
「重ねしろ」は最低１０センチ以上取る様にして下さい。
風などで動かない様に石などを重りにして下さい。

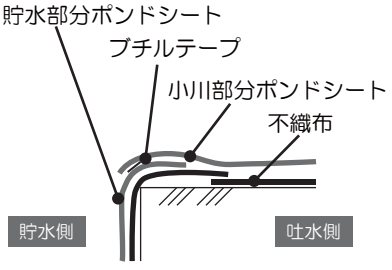


縁を50センチ以上残しておおまかに切り取ります。

2 ポンドシートを敷いて、貯水部分と貼り合わせます。



畳んだままのポンドシートを小川の中心に置いて外側に広げます。広げた後で小川の底面と側面に合わせて折り曲げて、突っ張っている部分が出来ない様にして下さい。（8ページ参照）端部は石を置いた後で仕上げます。



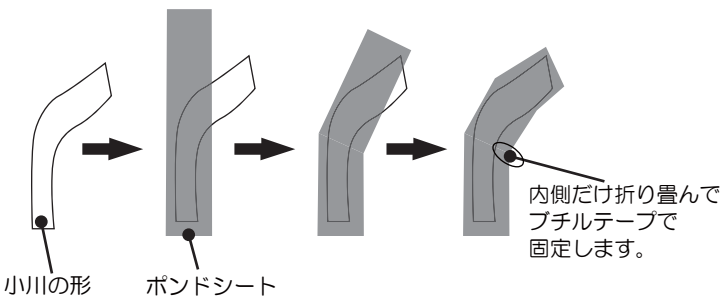
断面図

貯水部分のポンドシートが下に来る様にしてブチルテープで貼り合わせます。

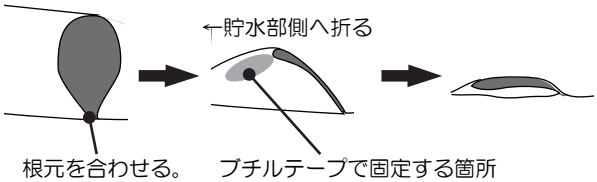
小川の湾曲部分について

湾曲部分が大きい小川の場合、ポンドシートが直線的に敷く事が出来ない事もあります。
その場合はカーブする部分を折り重ねていき、ブチルテープを使って固定します。
切り取りをしたり接着加工の必要はありません。

上から見たイメージ

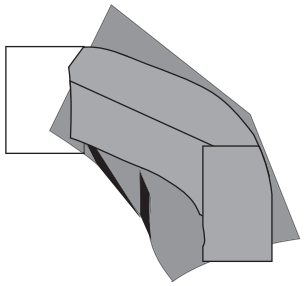


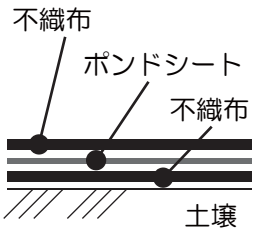
折り畳み加工の手順



余る部分の下側（根元）を合わせて、きれいに半分に折って貯水部の側に畳んだ後、ブチルテープで固定します。
全面を貼り付ける必要はありません。動かない程度で充分です。

3 ポンドシートの上にもう一度不織布を敷きます。



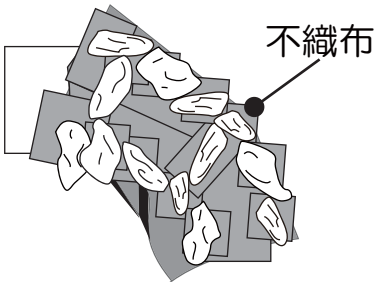


小川部分も貯水部分と同様に3枚重ねになります。
余分な不織布は切り取りします。
ポンドシートは後の工程で仕上げます。

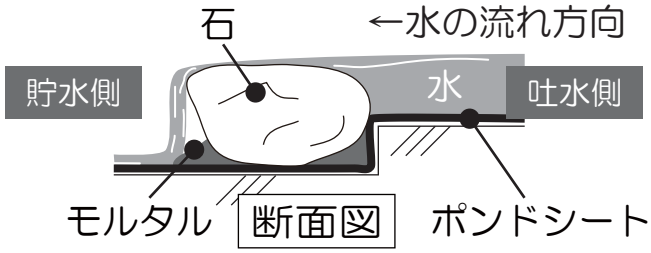
設置手順：5 大きい石の固定

小川部分に大きい石を配置します。

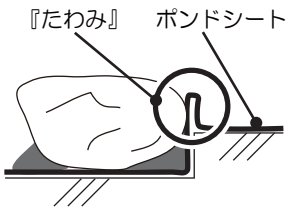
1 大きい石を置きます。



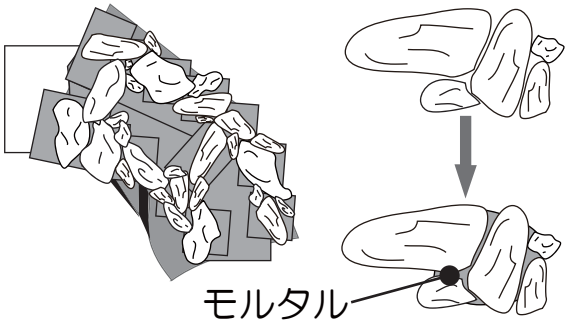
大きい石を置く場所は不織布の端切れを
石の底に敷いて保護して下さい。
以下の点にご注意下さい。
- 水が横へ漏れない様に滝や水深を考慮した大きさの石を設置して下さい。
- 段差部分は降り側に置きます。（左図参照）
- 石の設置は下流から上流へ
- 大きな石から順に設置して水路内のシートが固定されるようにして下さい。



One Point !
シートに余裕がある場合は、
上方向に一度たわませてから
下側へ通すと段差の手前で
水が貯まり易くなります。



2 小さい石で間を埋めて、すき間をモルタルで埋めます。



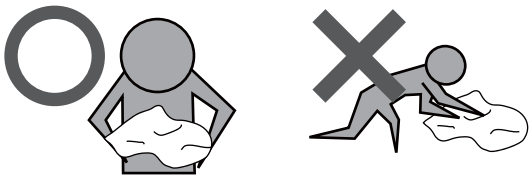
石はモルタルで固定します。
埋めたモルタルは砂利などで隠すようにします。

One Point !
石の設置は下流から上流に向けて
順番に設置します。

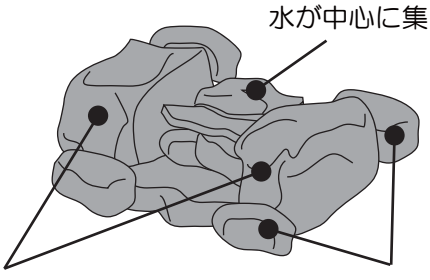
One Point !

• 石の移動方法

石の移動は、必ず持ち上げて行って下さい。
引きずるとシートがずれたり破損する
原因となります。



• 段差部分の石積みポイント



設置手順：6 配管の接続

各配管を接続します。

使う部材	K ボールバルブ：2個	L リベッドホース：6m	M ホースバンド：6個
	N タケノコ脱着ニップル：1個	O タケノコニップル：4個	P 樹脂ソケット：1個
	Q 樹脂ニップル：1個	R ポリエチレンパイプ：15m	S メスアダプター：1個
	T オスアダプター：1個	U メネジ付チーズ：1個	V シールテープ：1巻

1 配管が通る部分を３０センチ程度掘り下げます。

2 下図を参考に配管接続します。各部分の接続は次ページをご参照下さい。
４ページ、５ページも合わせてご参照下さい。

グレードアップキット接続部分

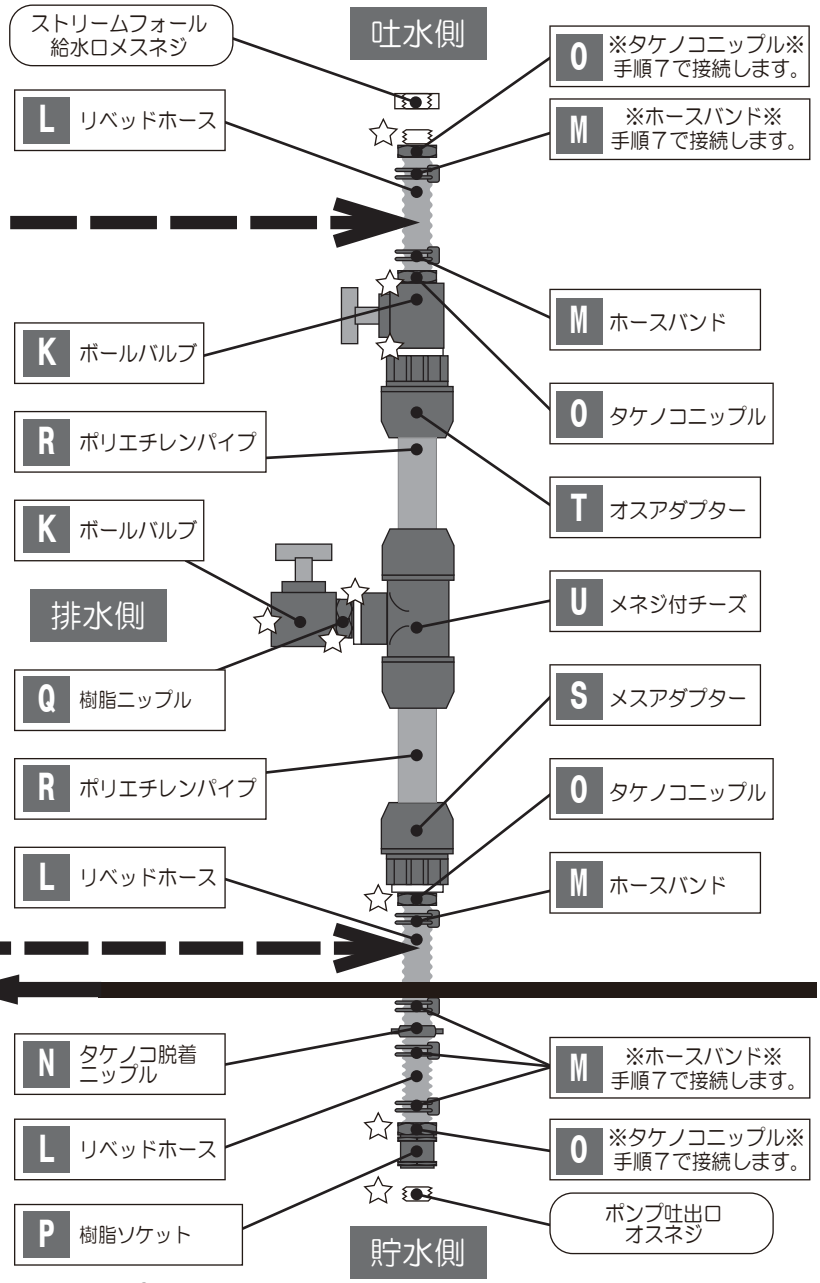
追加オプションのグレードアップキットを
取り付ける場合はリベットホースの箇所を切断して
分岐します。
接続などについては別紙のグレードアップキットの
説明書をご参照下さい。

☆W シールテープ使用箇所

シールテープはネジ接続部分の水漏れ防止のために
使用します。☆印の箇所に巻いて下さい。

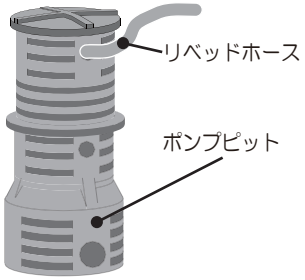
ポンプピット内に収納する部分

線より下の部分はポンプピット内に収納します。
ポンプのメンテナンスの際にはホースバンドや
ホースを外す必要はありません。
『タケノコ脱着ニップル』を分割するだけで、
ホースが絡まる事無くメンテナンスが可能です。



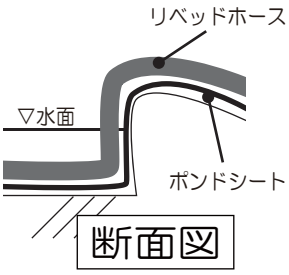
配管の取り回し

ポンプの開口部分からホースを取り出します。
ポンドシートの外側へホースを回して、
シートは穴あけ加工はしないようにします。



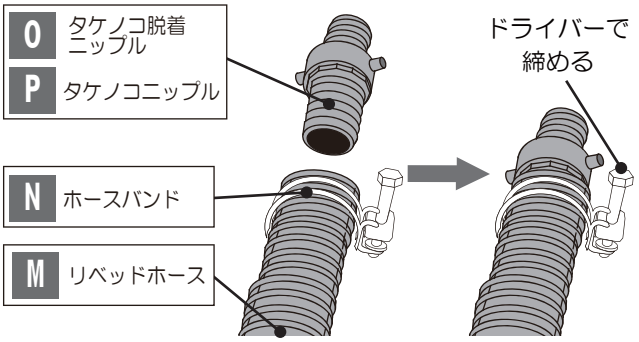
One Point !

ホースは水面よりも上の箇所で、
ポンドシートの外側へ出し入れ
をします。



各配管の切断長さは設置状況に応じて変えて下さい。
ホースやパイプは無理な「力」が掛かって折れたり、
ねじれない様に長さには余裕を持たせて下さい。

リベッドホースの接続



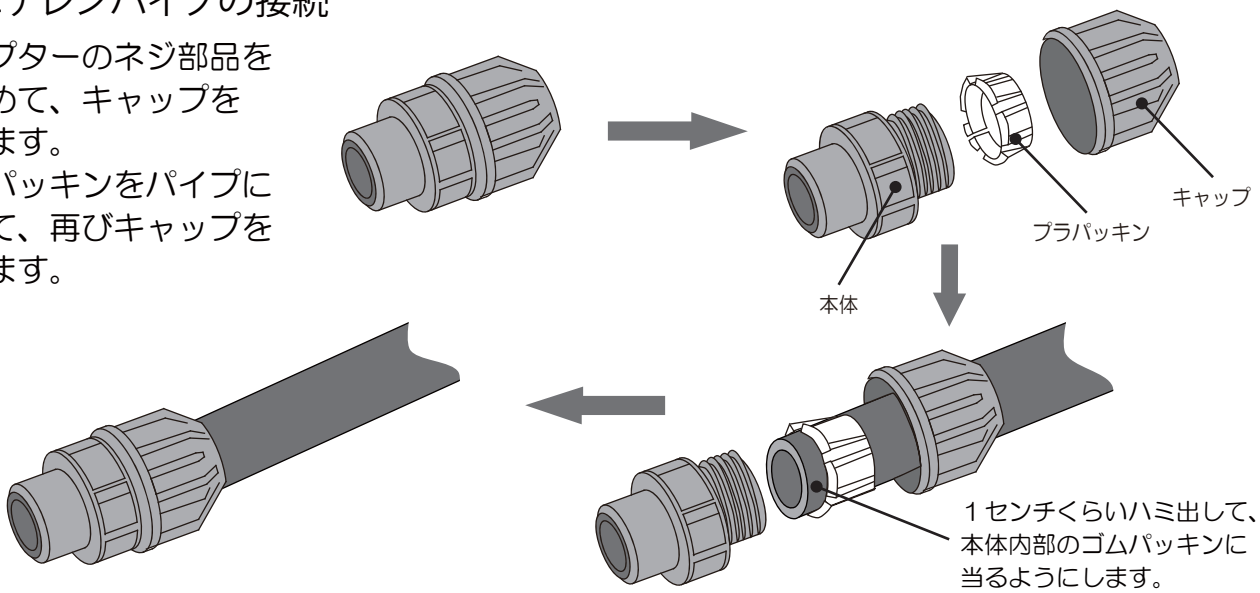
ホースバンドを通したリベッドーホースに、
タケノコニップルを奥まで差し込みます。
プラスドライバーでホースバンドを締めて
外れないようにします。

One Point !

ホースやパイプの切り口は出来るだけ
キレイに平坦になる様にして下さい。

ポリエチレンパイプの接続

アダプターのネジ部品を
ゆるめて、キャップを
外します。
プラパッキンをパイプに
はめて、再びキャップを
締めます。



ポンプとストリームフォールの接続は次ページ以降をご参照下さい。

吐水部分の器材設置の方法は２種類あります。
現場状況（ポンドシートの余裕）に応じて、お選び下さい。

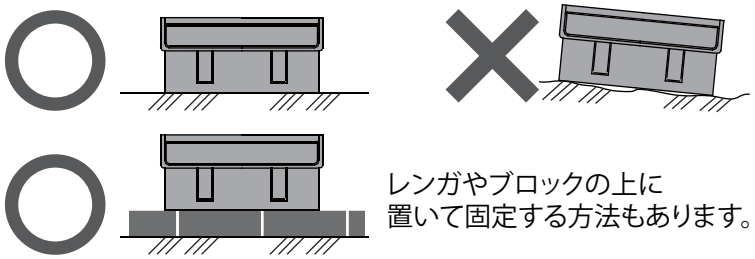
設置手順：7A 吐水口（ストリームフォール）の接続（シートに余裕のある場合）

配管と各器材を接続します。

使う部材				
	A ストリームフォール	B	ポンプ ECO-X13000	手順６で接続した配管に接続します。

1 ストリームフォールを設置する附近を整地します。

設置面は水平に

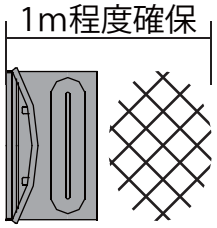


One Point !
必ず水平器を使って下さい。

レンガやブロックの上に置いて固定する方法もあります。

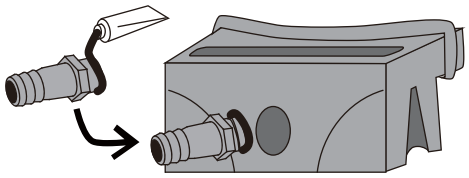
正面から見た図

作業スペースの確保

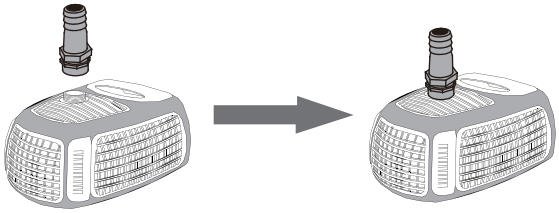


上から見た図

2 タケノコニップルにポンプとストリームフォールを取付して、配管に接続します。
リベッドホースはホースバンドで固定して下さい。（１３ページ参照下さい。）

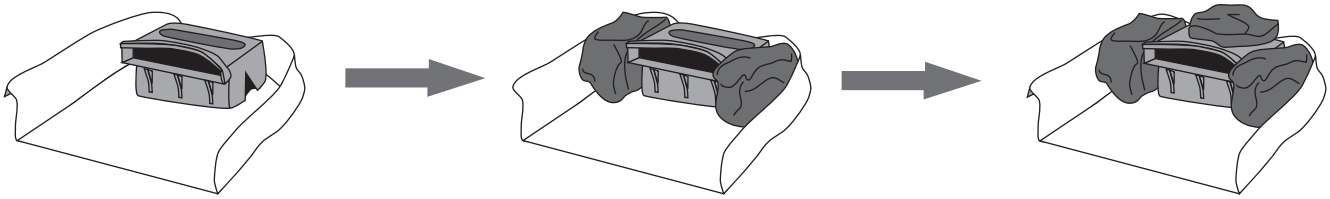


付属のシリコン（Black RTV Silicone)を１巻程度塗って取付します。

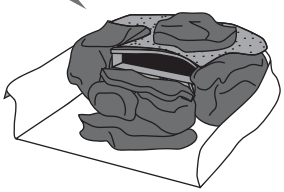


タケノコニップルと樹脂ソケットを接続します。

3 大きな石を上や周りに置いて、動かない様に固定します。
（必要に応じてモルタルを使用して下さい。）



One Point !



ストリームフォールを上手に隠すポイント

ストリームフォールは水の湧き出す箇所になります。不自然な外観にならない様に注意して下さい。以下の点を参考にして下さい。
・ストリームフォールの上部を大きい石や岩で隠したり、
　上部の凹み部分を利用して花を植える。
・周囲を石や砂利、植物で囲って吐水口だけ露出するようにする。

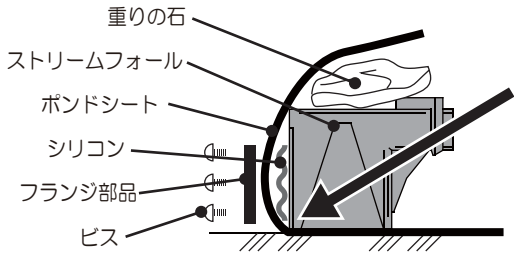
設置手順：7B 吐水口（ストリームフォール）の接続（シートに余裕の無い場合）

1は同じ手順になります。その後ポンドシートの加工をして、ストリームフォールを接続します。

作業の前に部品を確認して下さい。

ストリームフォール付属品
シリコン ×1、フランジ部品 ×1、ビス ×5

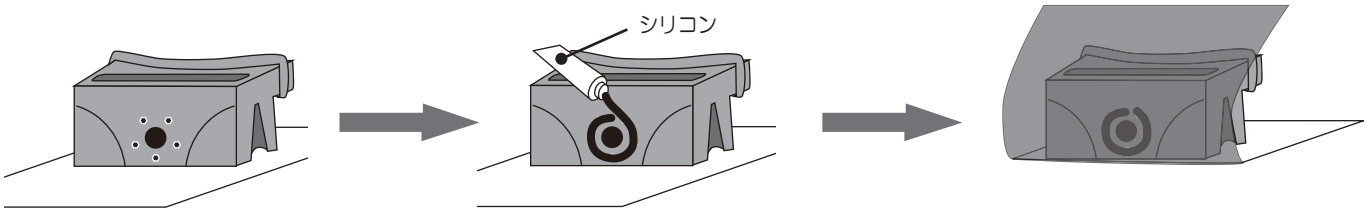
2 ストリームフォールの上に大きい石を仮置きして、動かない様にします。
ストリームフォールの背面にシリコンを塗って、ポンドシートを上にめくります。



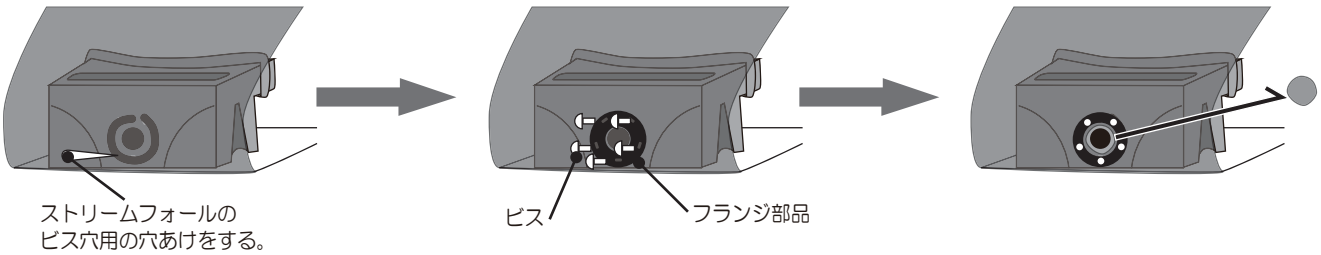
側面から見た図

ストリームフォールの角とポンドシートの曲げ始めにたるみが出来ない様にご注意下さい。

One Point！
不織布は石などの鋭角な物からポンドシートを保護する為のものです。
配管接続部分では切り取って下さい。

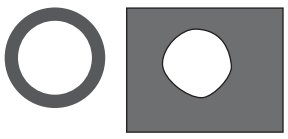


3 ポンドシートに針や釘などでビス固定用の穴を空けて、フランジ部品を取付します。
取付したら、タケノコニップルを取り付けるためにポンドシートを切り取ります。

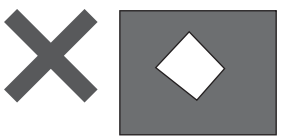


ポンドシートの開口について

ポンドシートの開口は、穴空け後にシートの裂け目が広がらない様に円形に空けて下さい。



角を取ってなるべく丸い形に近づける。



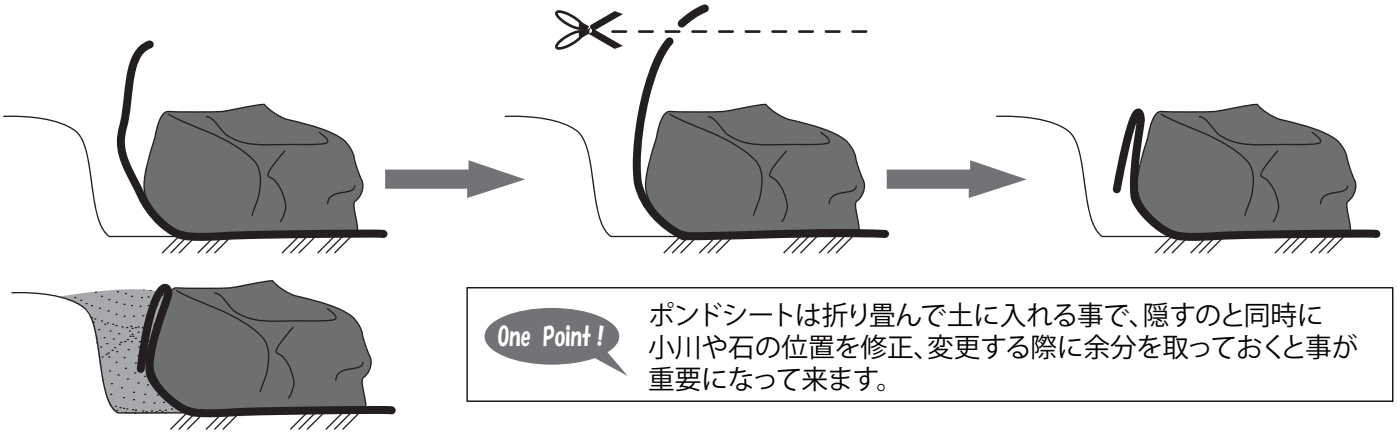
4 ポンプとストリームフォールにタケノコニップルを取付した後、ストリームフォールを動かない様に固定します。（１４ページ参照下さい。）

設置手順：8 各部分の仕上

ポンドシートの端部を隠したり、小川全体を仕上げます。

使う部材	
	H バルブボックス：２セット　K 水位計ユニット　Y フィッティング

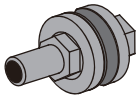
1 ポンドシートを５０～６０センチ程度残して切り取り、小川の内側に折り、土で埋めます。



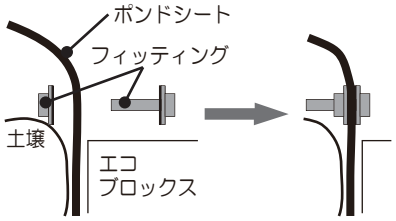
One Point！

ポンドシートは折り畳んで土に入れる事で、隠すのと同時に小川や石の位置を修正、変更する際に余分を取っておくと事が重要になって来ます。

2 貯水部分にオーバーフローを取付します。



フィッテイング部品は
オスメス共用です。
接続配管に応じて向きを
変えて下さい。



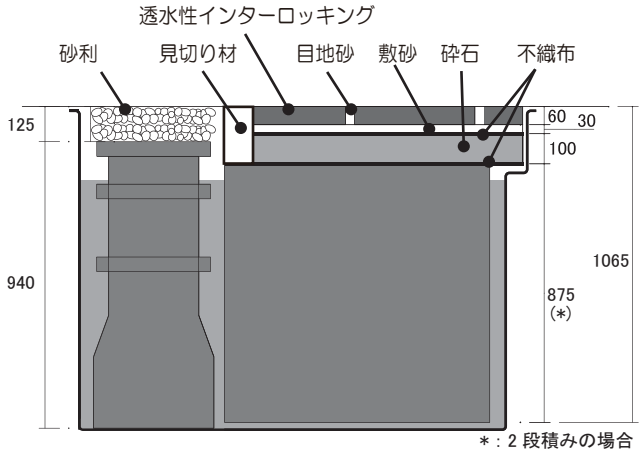
エコブロックスの天端より
上にポンドシートを開口して、
分解したフィッテイング部品を
挟み込んで取付します。

2 ストリームブロックスの上を不織布で覆った後、砂利などで隠します。
（インターロッキング仕上げの施工断面図は下記参照下さい。）

ポンプピットの設置箇所には、水位計が付きます。また、常時メンテナンスの出来る様にしておいて下さい。

3 貯水部周辺の装飾を行う前に一度水を貯めて、水漏れや地盤の沈下が無いか確認して下さい。

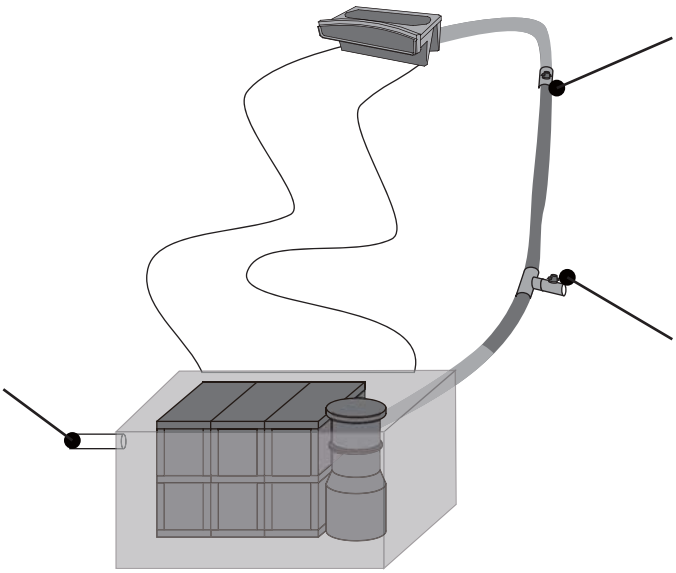
貯水部分のインターロッキング仕上



貯水部分断面図（インタロッキング仕上げ時）

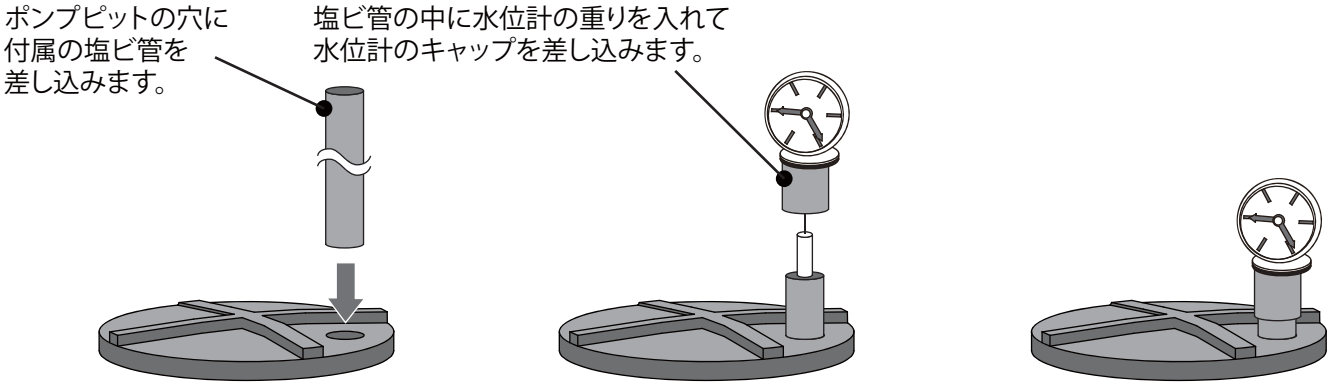
- 車両の乗り入れはしないで下さい。
- 敷砂、砕石への十分な転圧を行って下さい。
- ポンプピットはメンテナンスがし易いようにして下さい。
- 詳細についてはタイルメーカーの歩道・公園向けタイルの施工要領を参考にして下さい。

4 配管を取付して、バルブボックスを設置します。



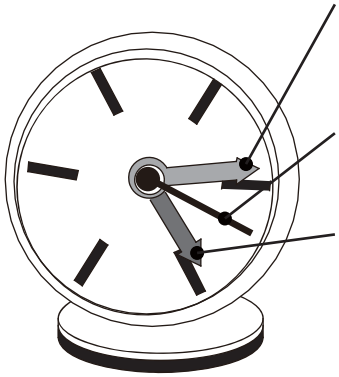
⚠ 排水管設置の際には、排水勾配の確保と
逆流防止の措置を取って下さい。

5 ポンプピットに水位計を取り付けします。



⚠ 初期循環時に水の汚れが出た場合は水の
入れ替えを行って下さい。

水位計の見方、調整方法



ＥＭＰＴＹ（オレンジ色）
貯水部分の水の
最低水量を示します。

細針（黒色）
貯水部分の水の
現在水量を示します。

ＦＵＬＬ（緑色）
貯水部分の水の
満水水量を示します。

調整方法

１：水位計の透明カバーを外します。
（マイナスドライバーなどをご使用下さい。）
２：重りを貯水部分の最低水位に合わせて、
細針の位置にEMPTYの針を合わせます。
３：重りを貯水部分の満水水位に合わせて、
細針の位置にFULLの針を合わせます。
４：透明カバーを元に戻して下さい。

お願い

ストリームキットはメンテナンスフリーのシステムではありません。
以下の注意事項をご理解頂き、お守り頂いた上で、
室内やお庭の清掃と同様に、定期的な清掃やお手入れが必要になります。
ほんの少しのお手入れをする事で、小川にはいつまでも澄んだ水が絶え間なく流れ続けます。
お庭にせせらぎのある暮らしをお楽しみ下さい。

⚠ 注意事項

- 本製品は水の流れを観賞するもので、水質の浄化機能はありません。清掃用、散水用には転用できますが、飲料用など人体に入るような用途には使用しないで下さい。
- 本製品はポンプで水を絶え間なく循環させる事によって、水の腐敗を抑制させています。定期的に水を入れ替える必要はありませんが、水分蒸発による水位の減少に注意して、ポンプはなるべく稼働状態にしておいて下さい。
- ポンプが稼働して、水が流れ続けていれば、アオコが発生して異臭がしたり、水が濁る事はありませんが、水アカに起因するヌメリや砂埃などの汚れが機器や砂利に付着する事はあります。

日常のお手入れ

- 水位ゲージを確認して水が充分にある状態を保って下さい。少ない場合は水を足して下さい。
- 小川の周囲の落葉やゴミは定期的に取り除いて下さい。
- 砂利や石、各機器に、こびり付いた水アカや汚れが気になる場合はブラシなどで擦って汚れを落として下さい。